

# GOD WITH US

## Part 8: JESUS

### Message 3 – The Four Portraits of Jesus

October 14, 2018

神は我らと共に

パート8：イエス様

第三メッセージ-イエスの4つの肖像画

#### はじめに

神は、イエスの生涯について、靈感によって4つの肖像画を与えてくださった。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネは、それぞれ特異な角度からイエス様の生涯に接近した。彼らの資料の選択と編成（グレコローマン [ギリシャローマ風] の歴史家の間では一般的に受け入れられている習慣）を通じて、イエス様の人生と使命の様々な側面を強調した。それらを互いに比較することによって、福音書の著者たちが記録するよう導かれた独特のテーマを発見することが出来る。この学びでは、各福音書の主要な思考のいくつかに焦点を当てます。

#### マタイによるイエスの肖像画：メシア（救世主）

マタイの福音書は、ユダヤ人の王について、ユダヤ人がユダヤ人に書いた「ユダヤ人」の福音書である。マタイは、イエス様に会い、イエスに従う前に税金徴収をしていた。税金を徴収する者は、記録を保持する作業に優れており、さらに速記を知っていた。イエス様がアラム語で語られた、すべてを記録したのがマタイである。他の福音書著者たちは、マタイの記録を用いて、それぞれの福音書を形作った（ギリシャ語で）。

#### -ダビデの子孫から出る救世主

マタイは、冒頭から、主要なテーマを宣言している。 . . . 家系図を用いて。ユダヤ人は、彼らが正しい家系から重要な地位を持つことを証明しなければならなかったので、祖先に大きな関心を持っていた。救い主は、正しい家族の血筋を保持していなければならなかった。イエス様は、ダビデ王の家系から来なければならなかった。マタイは、次のように始める：

アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図（マタイの福音書1：1）。

イエス様が待望されていたユダヤ人の「王」であったという事実は、この新しい王を見つけ、礼拝するために500マイルを旅したペルシャの王族の訪問によって確認される。

「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」（マタイの復員し2：2）。

#### -モーセの様なメシア（救世主）

ユダヤ人は、メシアは、第二のモーセの様なお方であると信じていた。

あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしの様なひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない（申命記18：15）。

マタイの肖像によれば、モーセとイエスの生涯には、いくつかの類似点が見られる。

-イエス様は両親と一緒にエジプトに行かれた。モーセはエジプトで育った。

- イエス様は、エジプトから上って来た。モーセは、エジプトから出た - 出エジプト記。

- イエス様は、バプテスマの水を通られた。モーセは、紅海の水を通った。

- イエス様は、40日間荒野に行かれた。モーセは、イスラエルの民を40年間荒野を先導した。

- イエス様は、山頂から神のみ言を教えられた(山上の説教)。モーセは、神の律法をシナイ山から持って降りた。

- イエス様は、5つの主要説教を捧げられた(マタイの福音書み)。モーセは、私たちに5つの主要な本を残しました - モーセ五書。

#### - メシヤの預言

物語が展開するにつれて、マタイは、イエス様がいかに継続的に旧約聖書の預言を成就されたかを説明している。マタイは、しばしば預言成就式を用いています。通常、次の様な形式である。「これは書かれた通りに起こった。。」

イエス様ご自身は、山頂の説教の中で、次のように書いておられる：

わたしが律法や預言者を廃すためにきた、と思っはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである(マタイの福音書5:17, 18)。

#### - 隣み深い救世主

イエス様は、彼を拒絶していた誇り高く、頑固な宗教指導者や彼の言葉や行為に対して心を頑なにした町や村のために、厳しい言葉を用いられた。しかし、彼のメッセージに心

を開く者には、たとえそれが異邦人(非ユダヤ人)であったとしても、優しく、哀れんでくださった。

パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。イエスはこれを知って、そこを去って行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、そして自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、「見よ、わたしが選んだ僕、わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。彼は争わず、叫ばず、またその声を大路で聞く者はない。彼が正義に勝ちを得させる時まで、いためられた葦を折ることがなく、煙っている燈心を消すこともない。異邦人は彼の名に望みを置くであろう」(マタイの福音書12:14-21)。

私たちが弱り切っている時、イエスの哀れみは、私たちに励ましてくる。彼はくすぶる心も消されない。上記の聖句によって、あなたをどの様に励まされましたか？イエス様の見方をどの様に形作りますか、特に弱く疲れている際に。

#### - 拒絶されたメシア(救世主)

マタイは、ユダヤ人の国民が、イエス様が救い主であったことを認めることが出来なかった - 彼らの指導者、律法学者、パリサイ人たちによって導かれた失敗に特別な注意を払う。第12章で、イエス様は、彼らの「伝統」に違反して、パリサイ派に正面から対抗している。

パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した(マタイの福音書12:14)。

イエスと指導者とのこの対立は、物語全体を通して勢いを増していくが、イエスの生涯の最後の週(受難の週)の一日目、エルサレムの勝利の入城の直後に、頂点に達する。イエスは

エルサレムに到着し、いかに指導者たちがイエス様を拒絶するかを説明するたとえ話を語り始める。

ぶどう畑の所有者と邪悪な農家のたとえ話は、すべてそれを物語っている（マタイ 21：33－46）。神は、ぶどう畑の所有者であった。イスラエルは、神のぶどう園であった。神はイスラエルをご自分に戻すために、次から次へと預言者を送られた。しかし、彼らは自分のしもべを虐待し、拒絶した。それから、神は御子を遣わして、イスラエルをご自分に戻そうとされた。しかし、彼らは息子を殺し、その遺産を奪うことにした。

祭司長たちやパリサイ人たちがこの譬を聞いたとき、自分たちのことをさして言うておられることを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである（マタイの福音書 21：45，46）。

#### - 十字架にかけられたメシア（救い主）

マタイの肖像画は、皮肉なことに待望されていた王が、罪状書きが掲げられたローマの十字架上で終わる。

その頭の上の方に、「これはユダヤ人の王イエス」と書いた罪状書きをかかげた（マタイの福音書 27：37）。

十字架にかけられたメシアは、ユダヤ人の期待の一部ではなかったが、マタイは、イエスの死が神のご計画の一部であったことを示している。

- 軽蔑され／嘲笑された（マタイ 27：29／イザヤ 53：3）
- 羊飼いを打つ／羊を散らす（マタイ 26：31、ゼカリヤ 13：7）
- 私たちの罪、病氣、病氣を負った（マタイ 8：17／イザヤ 53：4）
- 十字架につけられた（マタイ 27：31／イザヤ 53：7）
- 豊かに葬られた（マタイ 27：57－60／イザヤ 53：9）

最終的にマタイは、イエスはユダヤ人の王よりもはるかに偉大であられることを示している - 彼は宇宙の王であられる！

イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの權威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのこを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」（マタイの福音書 28：18－21）。

**要約：**約束されたメシア（救世主）、ユダヤの王であられるイエス様は、ユダヤ人によって拒絶された。しかし、神は宇宙の王となるようにイエス様を高揚された。

#### マルコによるイエスの肖像画：しもべ

マルコは、12人の弟子の1人ではなかった。いつもイエス様の群れの周りををぶらついていて、行動を共にした若い男であった。イエス様がゲッセマネの園で逮捕されたとき、マルコは、ある「若者」に関するこのメモを持っていた。

弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。ときに、ある若者が身に亜麻布をまとって、イエスのあとについて行ったが、人々が彼をつかまえようとしたので、その亜麻布を捨てて、裸で逃げて行った（マルコの福音書 14：50－52）。

それは古代の作家たちによる「私はそこにいた！私はこの目で見ました！」を意味している。マルコは後に、歴史の中で、ペテロの旅の仲間兼秘書となり、ローマの街における使徒の説教を記録した。

### -身代金を支払ってくださったしもべ

聖書学者たちは、第10章45節を定義の箇所として印している。文脈は偉大な弟子たちの間の論争であった。

しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」(マルコの福音書10:43-45)。

マルコの福音書では、イエス様は、罪の罰から、私たちの自由を買い戻すための代償として、自らご自分の命を捧げてくださったしもべである。ローマ人は、師徒関係について多くのことを知っていたので、イエス様が理想的なしもべであるというこの考えを直ちに把握していたはずである。

### -従順なしもべ

イエスの使命は重いものであったが(ご自分の命をもって身代金を支払う)、初めから終わりまで従順に仕える者であることを決意された。マルコは「即刻」という言葉を40回(!)用いて、イエス様が神のしもべとしての召しをどの様に果たされたか、そしていかに迅速に、行動されたかを示している。例えば第1章で。。。

水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった(マルコの福音書1:10)。

それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった(マルコの福音書1:12)。

すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った(マルコの福音書1:18)。

それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた(マルコの福音書1:21)。

マルコは、イエスが急いでおられたと言っているわけではなかった。イエスが使命にあったと言っており、その使命から抑止するものはなかったと言っている。イエス様は、人々のために父なる神(主)がイエス(しもべ)を送ったことを断固として成し遂げる覚悟であった。

### -権威あるしもべ

マルコの冒頭の句は、イエス様が神の御子であることを伝えている。

神の子イエス・キリストの福音のはじめ(マルコの福音書1:1)。

イエス様は、普通のしもべではない。父からの比類のない権威を持つしもべであった。そして、歴史上のどの人物とも異なる「神の御子」であられる(現在の皇帝、シーザー・アウグストス、神であると主張している人も含む)。マルコの福音書では、神の御子/しもべであるイエス様は、すべての領域にわたって、彼の権威を証明された。急速に展開していく出来事の中で...

- 彼は権威をもって教えた。
- 彼は権威をもって罪を赦される。
- 彼は権威をもって病気を癒された。
- 彼は権力をもって悪魔を追い出された。
- 彼は権威をもって死者をよみがえらせた。
- 彼は権威を持って自然に命じられた。

マルコの福音書の前半で、この神の子、イエスは、上からの真の権威を保持しておられるお方であることが分かるように説明している。

## - 十字架にかけられたしもべ

マルコは、他のどの福音書よりも、「長い紹介をした情熱の物語」である。その物語の1/3は、イエスの情熱に費やしています。「ただちに」という言葉は、イエス様がエルサレムに勝利の入城をされた時まで用いられている(11:3)。それから、物語の展開速度を落とし、マルコは、エルサレムにおいてのイエスの拒絶について熟考し、ローマの十字架上で死へと繋げている。イエス様がゲッセマネで逮捕された時点から、「ただちに」ということばが再び用いられるようになる(14:43)。

\*マルコの福音書の終わりについての備考。マルコのほとんどの古代写本は大16章8節で終わる。むしろ突然の終わりを迎えている。しかし、福音が始まり(イエスの公的伝導に直接展開する)、マルコの「即時性」を考慮すると、理解できる。続く箇所(16:9-20)は、ほとんどの学者によって、後に突然の終わりを「滑らかにする」ために強いられた編集者の追加とみなされている。これらの箇所の言語的スタイルと神学の両方によって後の編集作業が明らかにされている。

**要約:** 従順なしもべであられるイエス様は、人類の罪のために身代金を払うという、父の命令に従うために来られた。

## ルカによるイエスの肖像画: 救い主

ルカは、新約聖書の中で唯一の異邦人作家であった。また、使徒パウロの異邦人への伝導旅行に同行した仲間でもあった。それゆえ、ルカはユダヤ人だけでなく、全世界にイエス様がどの様に影響を与えたかに特別な関心を持っていた。

## - 人類の救い主

マタイの系図は、イスラエルの父アブラハムまでさかのぼった。ルカの系図は、それ以上さかのぼった。その最後の行は次の通りである:

**エノス、セツ、アダム、そして神にいたる(ルカの福音書3:38)。**

ルカは、アダムをはじめ墮落した子孫、すなわちすべてのユダヤ人と全ての異邦人のために、イエスが救い主になられたことを読者に知って欲しいと願った。

## - 世間から疎外されたひとたちのための救い主

ルカは、イエス様が疎外された人たちに、愛をいかに示されたかを特異な方法で伝えている。十字架の強盗犯は救いを見出だす。町の「罪深い」女性は、哀れみを見出だす。「良いサマリア人」は主人公であることが判明し、ユダヤ人の司祭とレビ人まで恥をかかせられる。取税人のかしらにイエス様を家に迎え入れる。放蕩息子は、父親の慈悲の腕に戻ってくる。

ルカの福音書の鍵となる節は、**人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである**(ルカの福音書19:10)。ルカの第15章では、3つの「紛失していたものが見つかる」たとえ話(失われた羊、紛失したコイン、失われた息子)の特異なコレクションが含まれている。ルカ特有の放蕩息子のたとえ話は、彼が伝えたいと思ったイエス様のイメージを最もよく表している。イエス様は、失われた世界の息子と娘を探して、父の家に帰宅させている真の息子(パリサイ人と正反対)である。

神は何かを失なわれた...そして、それを取り戻したいと願われた。これは聖書全体のテーマである。明らかに、失われた人々に対する情熱は、ルカの心(そしてパウロ)がイエス・キリストの心を掴ん

だのです。それは失われた人々の心にどのように影響するでしょうか？あなたが祈り、イエス様の愛を伝えるために祈っておられる人々は誰ですか？

### - サタンからの救い主

ルカによるイエス様の肖像画は、創世記3章に深く根づいている。神は将来エバの子孫の男がいつか蛇を打ち砕く者になることを約束された(創世記3:15)。ルカの福音は、イエス様こそが蛇を打ち砕くお方であったことを示している。イエス様のナザレの説教の冒頭では、サタンの捕虜を解放されるイエス様の使命を発表している。

「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである」(ルカの福音書4:18, 19)。

イエス様とサタンの間の霊的な葛藤は、物語全体を通して繰り返し現れるが、最後の部分が一番明確である。イエス様の逮捕、裁判と死の周辺で、サタンがその行為を見ている様子を描写しているのは、ルカの福音書だけである(22:3以降)。ルカが言っている通り、イエス様の伝導活動全体、特に彼の死と復活は、サタンの究極の敗北であった。

### - 祈られる救い主

すべての福音書は、祈ることの大切さをイエス様は自ら模範となって教えられたことを記しているが、他の福音書に比べて特にルカの福音書は、祈られるイエス様を強調している。イエス様は頻繁に祈りのために撤退された(5:16)。彼は夜の間祈られた(6:12)。弟子たちに祈る方法を教えられた(1

1:1-4)。祈りについて、たとえ話で語られた(11:5-13, 18:1-7)。目に見えない敵に襲われたときに、ペテロのために祈った(22:31-32)。血の汗をかくという点まで、ゲッセマネの園で熱心に祈られた(22:39-46)。

**要約:** 救い主であられるのイエス様は、アダムを始め、墮落したすべての人種の捕虜からの解放を告げ知らされるために来られた。

### ヨハネによるイエス様の肖像画：神

ヨハネの福音書は、異例の福音書である。イエスの生涯に異なるアプローチを取っている。「信じる」という言葉はヨハネの福音書全体を通して98回用いられている。ヨハネが記した7つの奇跡と7回の「わたしはある」の声明は、イエスを定義し、読者を信念に近づけるためのものである。

### - 神であられ、人であられる

ヨハネは、冒頭から、イエス様が神であられ肉体を持たれた人であられることを明確にした。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった(ヨハネの福音書1:1)。

そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た(ヨハネの福音書1:14)。

ユダヤ人指導者たちは、何度か神であると主張したイエス様を石打ちにしようとした：第5章-自分自身を神と同等に置いたため。第8章-旧約聖書の神であることを主張したため-永遠のわたしはある。第10章-父と一体であると主張したため。問題は明らかである：

ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺そうとするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」（ヨハネの福音書10：33）。

#### ー7回の「わたしはある」宣言

ヨハネの肖像画に特有であるのは、イエス様の「わたしは」に続く7つの比喻である。

私は人生のパンです（6：35,48,51）

私は世の光です（8：12;9：5）

私は羊の門です（10：7,9）

私は良い羊飼いです（11：25）

私は道であり、真実であり、いのちである（14：6）。

私は真のぶどうの木である（15：1）

#### -七つの奇跡

ヨハネの最初の11章は、「印の本」を構成し、神であると主張するイエス様の奇跡を記録している。

水がワインに変わった（2：1－11）

役人の息子を癒す（4：43－54）

ベテスダのプールで体の不自由な男を癒す（5：1－9）

5000人の給仕（6：1－5）

水上歩行（6：16－25）

盲目の男の癒し（9：1－41）

死者の中からラザロを生き返らせた（11：1－44）

ヨハネが述べた、それらの奇跡の理由：

イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、ま

た、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである（ヨハネの福音書20：30, 31）。

#### 最後の談話

すべての4つの福音は「最後の晩餐」について説明しているが、ヨハネのみが、この最後の夜について、4章にわたる延長版を記している（13－16）。ヨハネは、イエスと弟子たちの間の主要な話し合いに焦点を当てている。それは、食事のために集まった上の部屋で交わっているところから始まるが、続いて部屋を出てゲッセマネの庭に向かう。イエス様が出発した後、弟子たちが使命をもって前進して歩めるように、「出動命令」を与えられた。

#### -最後の祈り

ヨハネだけが、イエス様が最後の夜に弟子たちのために祈られた長い祈りを記録している（17章）。その集団は、第14章の終わりに上の部屋を去ったので、この祈りは、ゲッセマネの園での祈りの時間の一部であったと思われる。

**要約：**人としてのイエス様を通して、私たちの間に神が宿って下されるようになった。イエス様は、彼を信じるすべての人に永遠の命を与えられるために来られた。

#### 討論のための質問

1. 4つの福音書の中であなたが最も惹きつけられたのはどれですか？なぜですか？
2. イエス様の性格のどの側面があなたにとって最も魅力的ですか？
3. この学びを始める前に、あなたが知らなかったイエスについて学ばれた事柄は何ですか？